

小学1年生を毎日4kmも歩かせることができませんか

稲沢市教育委員会は5月13日、定例教育委員会で「稲沢市の義務教育と学校のあるべき姿」（以下「あるべき姿」

と略）を決めました。

これは大野市長が昨年6月に打ち出した「公共施設再編に関する考え方」に対応する

市長に追従した「あるべき姿」

「あるべき姿」は小学校について

①学級数による標準規模を12～24学級

②（徒歩による）通学距離の限度を片道4km

③学級の標準規模を6～24学級

④通学距離の標準は決めないというものです。

「あるべき姿」は老朽校舎建て替え時の指針と位置づけられています。

結局、昨年3月に大野市の諮問機関「公共施設のあり方検討委員会」の答申を忠実に実行に移す内容です。

朝からヘトヘト、風雨時はどうなる

徒歩4kmはJR稲沢駅～市



一斉下校を5校で試行

学校統廃合を進めると通学距離が長くなります。そうなるスクールガードの協力を得にくくなるため、一斉下校を試行しています。

昨年度2小学校で実施し、

「雨の日は長靴がびしょ濡れで、子どもがかわいそう」など不安の声が上がっています。

「今でももっと速く歩くようせかされ、子どもは毎日大変です」

「学校から帰ると、カバンを放り出してトイレに駆け込む。通学時間長くなったから、途中にトイレはないし……」

役所、祖父江支所、平和支所の距離に相当します。小学1年生がランドセル、水筒、体操服などを持って毎日歩くことができる距離でしょうか。

1・2年生は体力が十分つかないのに「高学年と同じ学校生活でクタクタ、家で宿題できない」などの声が上がっています。子どもの成長に合わせた学校生活にするべきです。

小規模校の利点を生かした教育を

学校統廃合の根底に1学年1学級を問題にする考えがあります。

文科省は強引な統廃合に「小規模校には……教育上の利点も考えられる……総合的に判断した場合、なお小規模校として存置し充実する方が好ましい場合もあることに留意する」よう警鐘を鳴らしています。

日本共産党演説会

7月11日(金)午後6時30分

名古屋市公会堂大ホール・4階ホール

地下鉄鶴舞線鶴舞駅下車徒歩2分

／JR中央線鶴舞下車徒歩2分